

# 島田市都市計画マスタープラン 地域別タウンミーティング（川根地域） 議 事 要 旨

◆日 時：令和元年8月21日（水）19：00～21：00

◆場 所：川根文化センターチャリム2階視聴覚室

◆出席者：地域住民30名

市役所職員：戦略推進課長

建設課長補佐

農林課長 他1名

生活安心課長 他1名

教育総務課長

市民協働課長 他2名

事務局：都市政策課長 他2名

## ◆会議次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議題
  - (1) 都市計画マスタープランの資料説明
  - (2) 意見交換
  - (3) グループワーク  
～わたしの考える“川根地域の未来”～
4. 連絡事項
  - ・今後の予定
5. 閉会

## ◆配布資料

- ・資料1 島田市都市計画マスタープラン 全体構想原案【概要版】
- ・資料2 第7章 地域別構想（川根地域）

## ■議事要旨

### (1) 都市計画マスタープランの資料説明

(事務局)

(説明)

### (2) 意見交換

(市民)

川根の中山間地域・過疎地域の地域条件、文化、産業等地域資源を考慮した都市計画マスタープランとなっており、その構想を示していただいたと思っている。今後はこれを受けて我々が各論の部分具体的なことを計画づくりに反映していくというスタンス・姿勢として解釈して良いか。

(事務局)

全体構想の中で説明したように、まちづくりの将来像の中に連携・協働という言葉が入っている。方針を実現していくための個別の施策があり、その時に地域のみなさんと協働でやっていきたいと考えている。

(市民)

自治会長をやっているときから、自主運行バスの利用を市にお願いしている。自治会でも自主運行バスへの期待に関するアンケート調査を実施し、その結果を今年の1月5日に副市長に提出しているが、返事はない。市として、自主運行バスについてどのように考えているのか聞きたい。

(生活安心課長)

島田市全体のバス委託料が膨らんでいる。市全体を考えると、バスの路線を増やすことは難しい状況にある。市としては、地元の方やNPO、福祉等の事業者の方にバスを出していただきたいと考えており、市から車両、燃料、保険料を出すことを考えている。これから一人住まいなどの高齢者が増えてくることになる。そこで、地元の中で自分たちの町の状況について考えていただき、それに対して地元やNPOが協力していけるのか、市に何を依頼するかを考えていただきたい。鍋島地区はこれまでもバスが通っていなかったが、来月から再来月から地元の方が高齢者の方を運ぶことを始めます。一度話を聞いてみてください。川根地区でも、地元の状況を考えていただき、市に何を依頼するのかを考えていただければ、市は協力を惜しまないつもりでいる。

(市民)

要望は出しているのですが、市の出前講座などで申請方法等詳しい話を聞かせて欲しい。手続き上、申請が必要になるため、市の職員に指導してもらって申請したい。地域でもすぐに自主運行したいと考えている方が35名程いた。免許返納してから考えるという人もいますが、急速に高齢化が進んでいるおり、あと数年で免許返納する人もいるため、早めに自主運行バスという形を取れたら良いと思っている。

(生活安心課長)

様々な問題を抱えていると思う。高齢者だけではなく学生もいるため、市としては地元の話を聞きに行きたいと考えている。その上で協力していきたいと考えている。

(市民)

コンパクトなまちづくりを進めていくということだが、「コンパクトなまち」が分からないため詳しく説明して欲しい。

(事務局)

高度経済成長期前から日本の人口が増えてきて、これまで人が住んでいなかった場所にも新しく住宅を作って人が住むようになってきた。今後、人口が減ってきたときに、これまで人が住んでいる地域がそのままの状態であると、人口密度が少なくなる。商店やガソリンスタンド等の生活利便施設が利便性を維持するには人口密度が必要となる。ある程度拠点の周辺に人が住んでいる場所を誘導し、人口密度を維持させていくことによって、その周辺も維持していけると考えている。このように拠点の所に集約していくことがコンパクトなまちづくりということになる。

(市民)

拠点から離れた集落は今後廃れていくということで解釈して良いか。

(事務局)

拠点から離れた集落が廃れていくということではなく、全体構想にもあるように、島田市の中にも島田駅周辺の中心拠点や、金谷、六合、初倉、川根といった地域にも地域拠点を作り、さらに集落にも集落拠点を作っていく。そうした場所に一定の人口密度を維持していくことで、拠点の周辺にある集落も維持していくと考えており、決してコンパクトにする場所以外の所が廃れていく・切り捨てられるというものではない。拠点に生活に必要な行政機能などを集積することによって、周辺も維持していくという考え方です。

(市民)

島田市としての少子化に対する施策は、何かあるか。

(戦略推進課長)

現在、「第2子半額、第3子以降無償化」等様々な施策を実施している。新しい施策として考えているのは、子どもが病気になったときに預けられる保育施設の整備や、保育所が少ない地域に小規模保育所を整備する等を計画している。島田市は子育て施策が充実していると考えており、0～9歳、30～39歳の若い世代の転入者が増加している。今後もいろいろな施策を展開していきたいと考えている。

(市民)

国の方針の無償化では、保育料金はかからないが、昼食代・副食代は料金がかかるようになった。市では、第3子は保育料無料で昼食代700円だけであったが、10月からは第3子でも副食代4500円がかかるようになり、月々5200円かかるようになった。これについて、すぐに答えはなくても良いが、考えてほしい。子育てにやさしい市ということになるのか、考えてほしい。

(戦略推進課長)

担当課に伝えます。

(市民)

防災面で、GWや盆休みは川根温泉等で観光客が非常に多くなる。地震や大雨等の際の避難経路はどうするのか、外国人観光客への対応について今後考えて欲しい。

(戦略推進課長)

市の南部では東名高速道路や新幹線もあり、地震があった際の人の誘導等は大きな課題と考えている。防災の計画には位置付けているが、川根地域や川根温泉に関する内容についてはこの場では把握していないので、担当課へ意見を伝えます。

(市民)

自主運行バスについて、先ほど市からNPOや町内会で組織を作って要望すれば対応できるという説明があったが、それではハードルが高い。5～10人のグループだと運転手の手配や行きたい場所のニーズと整合させることが大変で事務局がつぶれてしまう。小さな組織の方が運営しやすいと思われる。福祉目的の白タクの方が良いと思う。ハードルを低くして、相談を受けるようにしてほしい。

(生活安心課長)

できれば地域単位で考えていただきたい、その中で5人とかのグループで運営していくというように考えてもらえればと思います。市としては、地元の方々がかうまく運営できるような形にしていきたいと考えている。細かい対応については、話し合いをしたいと考えている。まずは困ったことを話すことから始め、運転手の手配等を進めてください。市からお願いするのではなく、まず地元で協議してからのの方が進めやすいと思います。

(市民)

「地元」というのは町内会や自治会ということではなくて、数人で自主的にグループを作って、運営範囲も検討して取り組んでいきたいというように要望しても良いか。

(生活安心課長)

気持ちは分かるが、そういうやり方ができるか分からないので、そうした内容も含めて協議したい。地域全体で考えるか、一部分で考えるかも話し合いたい。

(市民)

全体と比べる話ではなく、そういうことをやっていると時間がかかる。今日明日にも必要な人がいる。私も今なら運転手になれるが、数年経つと運んでもらう側になる。即断即決とまで言わなくても、もっとスピード感を持ってやってほしい。地域ではなく、班やブロックという単位もあり、それくらいの規模でないやりづらい。最初から広い範囲で考えるのではなく、ニーズに応じて個別に対応してほしい。

(生活安心課長)

市も早めに話に行きたいと思う。

(市民)

青年団のOBで、川根町時代から地域活動をしている。島田市と合併してから、川根の行事に加えて島田や金谷への出役も多くなった。祭りが重なることもあり、ほかの祭りに参加することができない。市のお金を使って祭りを開催しても役員は行くことができないので、サイクルを見直してほしい。暦を変えることはできないと思うが、行事がありすぎる。例えば消防団だと島田まで行かなければならず、時間もかかるのでもう少しコンパクトにしてほしい。まちのコンパクトも良いが、出役に関しても今後人口が減少していくため考えてもらえると良い。行政として対策等はあるか。

**(市民協働課長)**

行事が重なって役員も多いということだが、今後コミュニティを維持していく上では重要だと考える。自治会などの役員のなり手が少なくなってくる、コミュニティ役員のなり手が少なくなってきた。今までと同じ量のことを同じようにやっていると、役員の負担も大きくなる。いろいろな行事や役員の整理、自治会の合併等様々なことを考える必要があると感じている。市だけではなく市民も一緒に考える必要がある。非常に大切なことだと考えています。

**(市民)**

人口減少の割合のグラフについて、10年後の年代別の資料があったら将来のことを想定しやすいので見せてほしい。

川根町では、パラグライダーや観光で楽しめる施設があるが、ラブリーホースガーデン・乗馬があると思う。近隣で乗馬ができる施設はないと思うので、集客する施設として面白いと思う。川根町は、良いところはあるがコーディネートできる人がいない。川根温泉に宿泊した人たちに、川根町の観光スポットを紹介できる人がいたり、広報雑誌があったりすれば良いと思う。

**(戦略推進課長)**

島田市では観光総合戦略プランを作成している。市の観光に対する力の入れ方は、大井川流域に人を持ってくることを中心に考えている。島田金谷ICに観光交流拠点を整備して、大井川鐵道の駅も併設し、観光案内所もある施設を設けて、大井川流域に人を入れ込むということを中心と考えている。川根の地域資源は多くあり、ラブリーホースガーデンやパラグライダーパーク、笹間の神楽といった地域資源を戦略プランに位置付けていくことになると思う。魅力ある人に、島田市全体を引っ張って欲しいと考えている。中部5市2町で観光DMOを行っており、その中で観光に関する取り組みを行っている。市としては、観光協会を通して地域の観光を考える人を育てていきたいと考えている。

**(事務局)**

65歳以上の高齢化率は、直近の7月31日現在で44.3%、人口予測では10年後に51%になると考えられている。

**(市民)**

ピークはどのあたりか。

**(事務局)**

都市計画マスタープランでは、2040年に56%の予測となっている。

**(市民)**

人数は何人か。

**(事務局)**

7月31日現在で川根地区が4654人、2040年で2837人、10年後は3738人と推計されている。

(市民)

65歳以上の人数はどれくらいになるか。

(事務局)

2030年で1907人、2040年で1590人と推計されている。

(市民)

7月24日・25日にパラグライダーの大会がある。自治会連合会の会議の中でパラグライダー大会の話が出なかった。キャンプ地とパラグライダーを兼ねた観光を拠点にやっていくことを知っていたが、パラグライダーの話が出ないということは、観光課では重要視されていないのではないかと。観光をやっていくということであるが、前向きな話がない。

(事務局)

具体的な施策は観光課が担当となる。24・25日の大会の話は、観光課が常任委員会でも案内していた。連合会の時には話が出なかったかもしれないが、パラグライダーのことはいつも頭にある。

(市民)

自治会長として宣伝していなかったのがまずかったが、地元でも知らない人がいる。観光課が入っている事業であるため、広報としてやっていくべきだと思う。自動車も多く来るため、地元にも影響すると思う。

(市民)

10年前から島田市の地域医療を支える活動を行っている。川根地区の医療は大変厳しい状況に陥っていると思う。地域別構想でも地域に必要な施設として医療施設があがっている。一時期、静岡から開業医が川根に来て良いという話もあったが、都合でできなくなった。高齢化が進むと、医師も高齢となる。開業するより川根には診療所を作った方が、継続的だと思う。代々受け継ぐのは難しいため、公的な診療施設を整備して医師に勤めてもらうのが良いと思う。市民病院へはコミュニティバス1本で行けなかったり、予約時間に行けなかったりするの、診療所の設置の方が良いと思う。

(事務局)

都市マスタープランでは都市計画のため、道路や景観等が中心になってしまうが、具体的な医療に関することは健康づくりに関する計画で考えていくことになると思う。診療所を作ることは医師の手配もあり、難しい部分があるので、持ち帰って所管の部署に話しておく。都市マスタープランでは、ある程度の人口密度を維持するための施策として、診療所も魅力的な要素として考えているが、なかなか難しい問題である。

(市民)

医療環境が悪くなると、高齢者の方は医療環境の良い町へ出てしまい、人口が減少する要因になるため、検討してほしい。

(市民)

川根町の人が出ていく理由は、地元で土地が購入できないため、職場も近い島田や金谷へ出るの。コンパクトなまちづくりを考えた場合、島田市の空いている土地を個人に提供して安く売ってはどうか。家山だと森林組合や商工会があった土地を分割して個人に販売すれば、人や子どもが増えると考えていた。現在、この土地の利用は考えていないのか。

**(事務局)**

子育て住宅前の土地のことですか。

**(市民)**

そう、森林組合と商工会の跡地のことで、まだ利用されていない。家山地区では、一般人に住宅として販売してはどうかと思う。コンパクトなまちづくりといっても、若い人が土地を買わないと、地域から出ていってしまう。それを抑えるためには、行政でも土地を抑えて安く提供するような努力をしないと、今後も高齢化は進むし人口は減少すると思う。

**(事務局)**

個別具体施策は次の段階になるが、今の意見も含めて考える必要があると思う。アイデアとして受け止める。

(3) グループワーク「わたしの考える“川根地域の未来”」

- ・地域構想の内容を踏まえ、グループごとに“地域の未来”がどうなって欲しいかを話し合い、地域のまちづくりへの期待や、地域の未来像のイメージを「未来カード」に記入した。
- ・地域別構想原案について、追加意見があれば『ご意見カード』に記入した。

《グループワークの結果（『未来カード』への記載内容）》

グループ	意見概要【わたしの考える“地域の未来”とは】
Aグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春は新緑、秋は紅葉、コントラスト豊かな豊かな山々の育成</li> <li>・鮎釣のできる大井川</li> <li>・山間地茶葉の振興</li> <li>・473号、県64号 道路整備</li> <li>・自然を大切 共生して 住んでよし（職場、医療、子育て）訪れてよしのおもいやりあふれるまち</li> <li>・豊かな里山の有る地域</li> <li>・安全な道路で通勤できる川根</li> <li>・静養地としての川根を目指す</li> <li>①お茶への依存を思い切って切り替え、他の農業（観光農園や効率の良い野菜工場）のような方向にカジを切る。勿論引き続きお茶生産も続ける</li> <li>②もっと自然（山・川・池）を生かした集客方法を考える。フィッシングセンターや里山づくり、キャンプ場やウォーキング場の充実</li> </ul>
Bグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の存続</li> <li>・里山の暮らしを守る ～世代間、集落間のネットワーク～</li> <li>・観光資源は川根地区にはたくさんあります。今後、観光客を多く呼び込むためには、キャンプ場の確保、山林を利用したマウンテンバイク、又、オフロードバイクを利用した山林の作業道の活用、大井川を利用したカヌー（カヤック）等で川下り</li> <li>・若者の定住</li> <li>・お茶の再興</li> <li>・アクティビティ事業の構築</li> <li>・若者定住 → 子育て世代 高校生の親世代まで</li> <li>・お茶の再興 川根茶 若者就労（農）</li> <li>・「ちゃいんど」退去後の宅地確保 → 窓口、定住のための制度化</li> <li>・アクティビティ事業構築 キャンプ、カヌー、バイク、トレイルラン = 産業 ⇒ 若者就労 → 定住</li> <li>・キャンプ場確保（イベント利用） → 河川敷活用</li> <li>・森林活用（林道、山林） → レジャー（バイク（走行）他）</li> <li>・川の活用 → カヌー他川下り</li> <li>・保・小・中の存続 → 子どもの「数」確保 → 親の確保 → 定住 → 道路（観光活用）、宅地、商業（田舎仕様で可）、職場</li> </ul>

グループ	意見概要【わたしの考える“地域の未来”とは】
Cグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観 日本の原風景 → 川根は日本の文化が色濃く残る地域 → 観光に生かす</li> <li>・文化の保全をしています</li> <li>・人口減少に対処し、健康長寿な町づくりを目指し、住民の交流を盛んにするための施策に力を入れていく</li> <li>・近隣関係の密度を高める活動をコミュニティの中でとりあげていく（認知症のないまち）</li> <li>・防犯のまちといえる住民組織のあるまちに育てる</li> <li>・お茶一辺倒でなく、多様な作物を作り、それが地域の特性としてアピールできるようにしたい。またそれが、収入の安定につながると思う</li> <li>・協働を実現するための川根地区で、自立できる行政機能の充実</li> <li>・支所機能に「中山間地域振興部門」を加える</li> </ul>
Dグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔の数が日本一</li> <li>・R473の整備（空港、ICからの観光客の誘致）→交流人口を増やす、維持する （人口は減っても町として維持、持続）</li> <li>・自然と共生しながら、にぎわいのあるまちづくり（自然観光）</li> <li>・住民が楽しく安心して住める地域になれば良い</li> </ul>
Eグループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が住み続ける事のできる町「目指せ小・中学校2クラス」</li> <li>・子ども、子育て世代が住みやすい地域（公園、子育て環境の整備、住める土地）</li> <li>・若者が定住できる地域づくり</li> <li>・基幹産業のお茶を活用する町作り</li> </ul>

■ 『ご意見カード』 への記載内容

地域別構想 に関して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島田市が「島田」として一番自信をもって言えることは？ ⇒それを全面に強調したマスタープランにしてください！</li> </ul>
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達が住みよい地域を作ると、外部から見学者が来るようになる。わざわざ観光目玉を作らなくても良い。(岡山県西粟倉村が良い例です)</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川根温泉の活性化に資する、長距離自然歩道にて、何らかの手段で大井川を横断する周遊コースを設け観光振興を図る</li> </ul>
交通環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家山地区を拠点とし、各集落をネットワークする公共交通を確保する</li> </ul>
施設整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川根地区土地利用計画</li> <li>・川根地区公共施設再編&amp;宅地供給計画</li> <li>・過疎計画に盛り込む</li> <li>・既存の公共施設を統廃合し、「複合施設」を設ける。医療機能を含める</li> <li>・473号線の整備、急務</li> </ul>
要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな水を利用する企業誘致</li> </ul>
子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援住宅ちやいどの子どもが中学校卒業までしかいられない。その後の川根に住む土地などの提供や相談窓口を作ってあげて欲しい。現状、金谷島田に土地を買って結局川根を離れてしまっている。</li> </ul>
医療環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民病院の医師数の確保</li> <li>・産婦人科の復活</li> <li>・当地区は高齢化が進み、一人暮らしが増えつつあり、特に健康に不安を持った方が増えて来て、近くに医院がありますが、予約制になり大変混んでおり、医院又は診療所とか作って頂き、安心して暮らせる地域にして欲しいと思います。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療所の問題も公共交通の問題も観光の充実、若者の定住問題など、いずれも予算(お金)のいることである。しかるに現状の島田市の内実は市民病院立て替え、金谷インター建設、市役所立て替え、おおり改修など大型プロジェクトが山積みです。とても川根に予算がまわるとは思えません。島田市内にはない温泉・池・自然があるこの土地です。島田の奥座敷と言われてもいました。もっと予算をつけて下さい！</li> </ul>